

高校女子 試合レポート

2月2日(日) 東松山市岩鼻

サッカー場にてたくさんの方の応援のなか、準々決勝が行われました。この結果、次節準決勝では、

山村学園 vs 久喜 浦和西 vs 入間
向陽が決勝進出をかけて対戦します。

第1試合

山村学園 vs 花咲徳栄

1-0 (0-0, 0-0)

延長 1-0 (0-0)

両チームとも運動量豊富で、優勝候補として名前が挙がるほど前評判の高いチーム同士の対戦。序盤から両校ともボールに対して激しくプレスを掛け、相手に攻撃のリズムを作らせない。相手からボールを奪うと、素早くサポートの選手に預け、そこ



激しく競り合う山村と花咲

からワンタッチで山村学園はサイドへ、花咲徳栄はDFの裏へスルーパスをと、お互いの持ち味の攻撃を組み立てるものの、DF陣も集中して簡単に相手にシュートチャンスを作らせない。

一進一退の攻防が続き、このまま延長戦かと思われた終了間際に、山村学園は左サイドからドリブル突破し、中央にいる選手へパス、花咲徳栄DFを引き付けて、中央やや右目でフリーになった選手へパス、DF

と1対1になるもの、シュートはミスヒットで花咲徳栄DFに難なくキャッチ



される。そのまま、タイムアップで延長戦へ。

延長前半4分、山村学園が立て続けに花咲徳栄ゴールに迫りシュート。花咲徳栄DFがはじいたこぼれ球を山村学園が押し込もうとするも、カバーに入った花咲徳栄DFがほぼゴールライン上でクリアしたが、そのクリアボールに、山村学園DF番が飛び込み、自分の体にあてて花咲徳栄ゴールをこじ開け山村学園が先制した。最後まであきらめない花咲徳栄は、攻め込むものの決定機を迎えられず、試合終了。

両校とも最後まで運動量が落ちない好ゲームであった。

第2試合

久喜 vs 熊谷女子

2-0 (2-0, 0-0)



意地の女子高対決



地力で勝る久喜は、序盤からボールポゼッションで熊女を上回り、前半だけで2点をリードする。熊女は、時折シュートカウターから久喜DFの裏を抜けるも、決定機を迎えるまでは行かない。後半に入っても、久喜の優勢は続くが、熊女も粘り強くディフェンスをし、久喜に決定的なチャンスを作らせない。後半は0-0としたものの、前半のリードを守った久喜が勝利した。



赤:熊谷女子 緑:久喜

第3試合

浦和西 vs 川口総合

4-3 (2-0, 1-3)

延長 1-0 (0-0)

けが人が多くベストの布陣で臨めない川口総合に対して、浦和西は前半から試合のペースを握る。浦和西は、前半に10番の選手が1ゴール1アシストと2点リードをして後半に入る。



水色:浦和西 エンジ:川口総合

後半に入っても浦和西が先に追加点をあげ、3・0となった時点で勝利が確定したかに思われたが、直後に川口総合が浦和西ペナルティーアーク付近で、**㊦**と**㊤**の連携ミスからボールを奪い、無人のゴールに流し込み1点を返すと、浦和西は落ち着きを失い、コーナーキックから2失点目を喫してしまふ。完全に川口総合の押せ押せムードに飲み込まれ、終了5分前について同点にされてしまふ。延長戦前のインターバルで一息

ついた浦和西は、延長前半から猛攻を仕掛け、川口総合ゴールに迫る。そこで得た左コーナーキックを10番が高い打点から、ヘディングで決め浦和西が1点を勝ち越す。この1点で落ち着きを取り戻した浦和西は、延長後半川口総合の反撃を許さず勝利した。

第4試合

人間向陽 vs 埼玉平成

1-0 (0-0, 1-0)

お互いに決定機を作らせない引き締まったゲーム展開となった。



入場する人間向陽と埼玉平成イレブン

埼玉平成は、トップにボールを入れてそこを基点にゲームを組み立てる。人間向陽は、司令塔の位置

からサイドを使ってゲームを組み立てる。どちらも**㊦**の意識が高く、シュートを許さず一進一退のまま前半を終える。

後半開始早々、人間向陽は中盤のスペースを見つけてパスをつなぎ埼玉平成のペナルティーエリアに進入する。それを止めようとした埼玉平成**㊦**はファールをし、人間向陽に**㊦**を与えてしまふ。人間向陽はこの**㊦**を右上に決め先制する。

埼玉平成は、ふとこの深いトップの選手にボールを集めるが後が続かず、**㊦**の1点を守りきった人間向陽が勝利した。



円陣も独特な両チーム



準決勝2月8日(土)

山村学園 vs 久喜

(戸田市惣衛門㊤)

浦和西 vs 人間向陽

(川越陸上競技場)

あわせて、4月の学校総体のシード決めの順位戦も行います。

花咲徳栄 vs 熊谷女子

(戸田市惣衛門㊤)

川口総合 vs 埼玉平成

(川越陸上競技場)

